

# 教えて！先生 日本人形の衣裳に迫る

11月17日

## 第8回 かさねの色目

松井幸生さん  
株式会社善助商店社長  
Matsui Yukio

金襴織物・裂地の製造卸商を営む。菅田屋勤兵衛から数えて13代目。京人形商工業協同組合副理事長。平成12年伝統的工芸品産業審議会臨時委員任命。翌年、伝統的工芸品産業の奨励賞を受賞した。

今日の先生



日本人形の衣裳にとことん迫る本企画。人形の衣裳に使われている文様や生地はもちろん、着せ方についても詳しく解説していきます。業界のスペシャリストを講師に迎え、衣裳の基礎から応用まで教えていただきます。知識の習得や再確認、セールストークにお役立てください！  
第8回は「かさねの色目」についてです。

——今回は女房装束には欠かせない「かさねの色目」について教えていただけますか。この辺りは避けては通れない部分ですよね。

**松井さん** 良いテーマですね。現代のファッションと同じように装束にもトレンドや流行りがあり、どうお洒落をするか。昔の人たちも一生懸命に考えていたと思います。時代によって価値観は違うけれども、四季の移ろいや木や花の微妙な色を歌に詠んでいる様子からすると色に対する感性が鋭かったと思います。女性の教養が高まるとともに、文化のレベルも高くなっていったと考えられます。

——かさねの色目といっても意味は一つではないのですか。イメージしていたのは女房装束の五衣に

使われている配色だけでした。

**松井さん** 五衣に使われるのが一般的かと思いますが、他に裏地のある衿の着物の裏と表の生地の配色を楽しむことをさす場合もあります。今回は五衣のかさねの色目を中心にまとめるのはいかがでしょうか。製造の方も、販売する方も知りたいと思われる方は多いと思います。

### 女房装束、かさねの色目

平安時代の女房装束で生まれたのは、生地が数枚重なって生み出されるグラデーションの彩り。一枚の美しさよりも、色を重ねたときの美しさを重視した。

とりわけ桂を5枚重ねた五衣の色合いには趣向を凝らしたとされ

ている。色の組み合わせで季節を表現して着用すべき時季を定めた。着る本人だけでなく、見る人も楽しませる。四季がある日本ならではのカラーコーディネート。

——日本の四季は世界に誇れるものですか、季節感を大事にされていたのがよく分かります。それにしても書物を見ていると、かさねの色目には名称があるのでですね。配色には決まりのようなものがある。好きな色を、好きに組み合わせる良いわけではないようです。かさねの色目の配色の基本を教えてくださいませんか。

**松井さん** かさねの色目にはそれぞれ名称があります。もともとオーソドックスで人気があった文獻は『満佐須計装束抄』です。

——満佐須計装束抄？ はじめて聞きました。

**松井さん** 『満佐須計装束抄』というのは簡単に言うと装束全般に関するルールブックです。

平安時代後期の貴族であった源雅亮まさひらが著したもので、平安装束の有職故実書です。著者の名前から『雅亮装束抄』と書かれることもあります。

内容は調度、服装などの装備、組合せについて具体的に解説してあり、全3巻からなります。3巻において女房装束をはじめ、かさねの色について説明しています。平安時代末期、安元（1175～1177）頃に源雅亮が著したと言われている、装束の抄物では最も古いものとされています。

## 女房装束の基本となった色目

かさねの色目は、同じ名称であつても色の具合には微妙な違いがある。また平安時代以来、公家が好んだグラデーシオン、配色は次のように呼ばれている。

句くま ↓ 同系色のグラデーシオン  
薄様うすさま ↓ グラデーシオンで淡色になり、最終的には白にまでなる配色

村濃むらぬ ↓ ところどころに濃淡がある配色

単重ひとえがさね ↓ ひとえがさね。夏物の裏地のない衣の重ね。下の色が透けるので微妙な色合いとなる

今回は『満佐須計装束抄』に見られる代表的なかさねの色目であり、「夏秋冬のいろいろ。祝に着るいろいろ」の6色を下記の通り紹介する。

※参考文献に近い色を再現しているため、本来の色合いとは差異があります。ご了承ください。

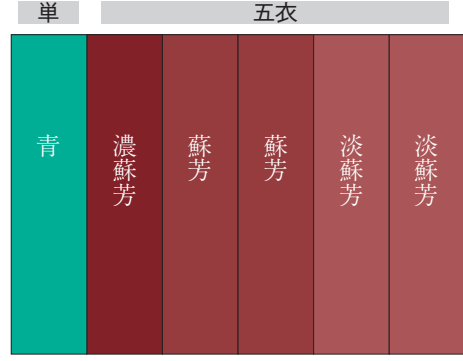
**参考文献**

- ・八條忠基著『素晴らしい装束の世界』（柳誠文堂新光社、2005年）
- ・八條忠基著『有職装束大全』（シナノ書籍印刷株、2018年）
- ・長崎盛輝著『平安の美裳かさねの色目』（株式会社京都書院、1988年）

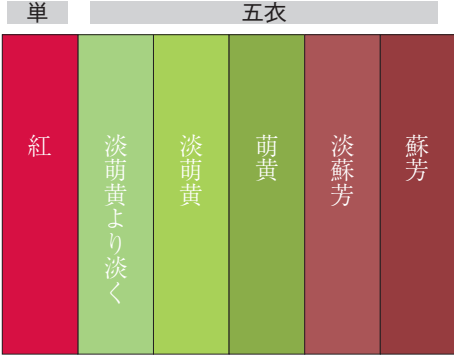
## 『満佐須計装束抄』

女房装束の色。春夏秋冬のいろいろ。祝にきるいろいろ。

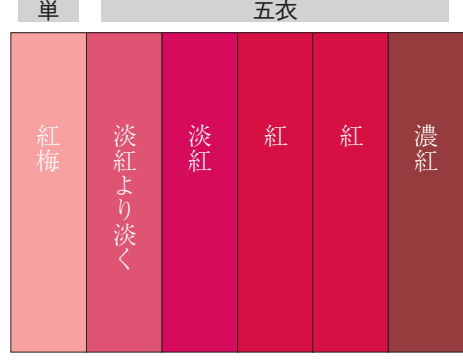
蘇芳の句（すおうのにおい）



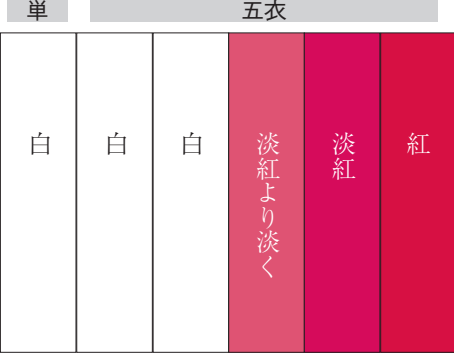
松重（まつがさね）



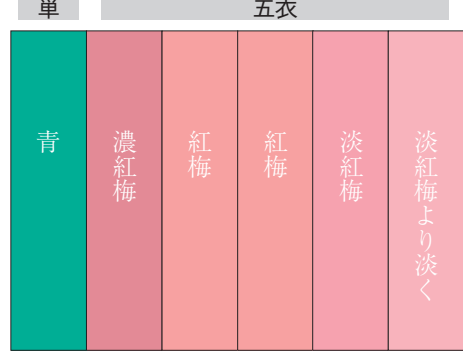
紅の句（くれないのにおい）



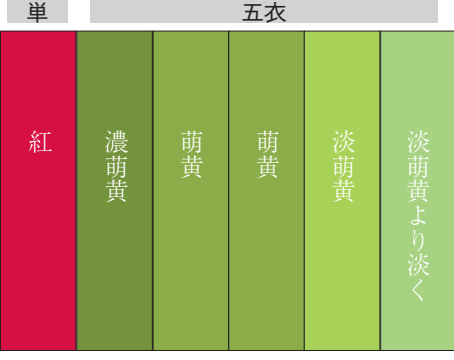
紅の薄様（くれないのうすよう）



紅梅の句（こうばいのにおい）



萌黄の句（もえぎのにおい）



※本連載は隔月連載です